

## 孤風院の“劇場空間化”プロジェクト -100年後を見据えた空間の素材・色彩計画-

建築学科2年 中島孝雄 担当教員 田中智之

### 1. 活動目的

旧熊本大学工学部講堂『孤風院』を“劇場空間化”する一環として、白壁を製作する。従前の壁はベニヤ板がむき出しになった状態であり、その前に本棚が設置してあったが、外気にほぼ直接さらされているようなものであり、湿気などによる本への悪影響や、外観的損ないを避けられない状況であった。そこで、壁そのものを作成して問題点を解決するとともに、伝統的な職人の技術を直に体験し、建築的な経験も積む。

### 2. 活動内容

#### 2-1 準備・下地制作

- 1：8月末 模型作成 原寸模型の作成。オープンハウス用でもあり、実際の施工の参考にもするため。
- 2：9月1日 オープンハウス 中間活動報告会を兼ねたもので学生、建築家、アドバイザーが参加。
- 3：9月2日 本棚の解体 壁の前に設置されていた本棚を解体・補修をおこなった。
- 4：9月初旬 下地作り バス板・防水フィルム・ラスメタルをとりつけた。
- 5：9月9日 壁下塗り 左官職人の指導のもと、モルタルによる壁下塗りをを行った。
- 6：9月16日 壁中塗り 指導のもと、モルタル下地の上に土・すさ・川砂・水を混入したものを塗布。
- 7：9月23日 壁の上塗り 指導のもと、中塗り下地の上に漆喰上塗り。表面となるので丁寧に。
- 8：9月24日 壁の撫で付け 塗り終わった壁の表面をこてで撫で付けて押さえ、内部の空気を抜くことで、表面のつや・手触りを仕上げた。

#### 2-2 壁の施工

- 1：下地作り（添え木の打ち付け）  
既存の間柱に側面から添え木を打ちつけていく。
- 2：下地作り（バス板）  
薄い長方形の板を等間隔で上から順に打ち付けていく。継ぎ目が上下の板で同じところこないように注意。
- 3：下地作り（防水フェルト）  
バス板の上に隙間なく防水シートを貼り付けていく。
- 4：下地作り（メタルラス）  
防水シートの上にメタルラスをステープルにて打ち付け。表面に凹凸を作ることで、材料を塗りつけても滑り落ちないようにする。
- 5：壁塗り（下塗り）

鏝を使ってモルタルを表面に塗りつけていく。生セメント、川砂、水を混ぜてつくる。塗り終わったら表面にくしを使って凹凸を作る。

#### 6：壁塗り（中塗り）

土壁によって行う。乾燥土とすさ（短く切ったワラで、つなぎの役割を果たす）中塗りは2度行う。最後に前回同様表面に凹凸をつくる。

#### 7：壁塗り（上塗り）

しっくいを塗る前に表面全体につなぎとなる液を散布する。その後しっくいを厚さ1ミリで塗っていく。

#### 8：表面仕上げ

盛り上がった壁の表面を鏝で押さえつけることで内部の空気を抜く。この作業をすると表面につやがでて手触りがよくなる。



### 3. 壁を製作して

職人さんら様々な方の協力で立派な壁を仕上げることができた。何もなかったところに自分たちの力で形あるものを作り出せたのは嬉しく思う。大変ではあったが伝統的な職人芸を体験することもできたし、小規模ではあるものの、設計から施工までを通した建築的なことができたのはとてもいい経験だった。とても有意義な活動であったと思う。

